

月刊

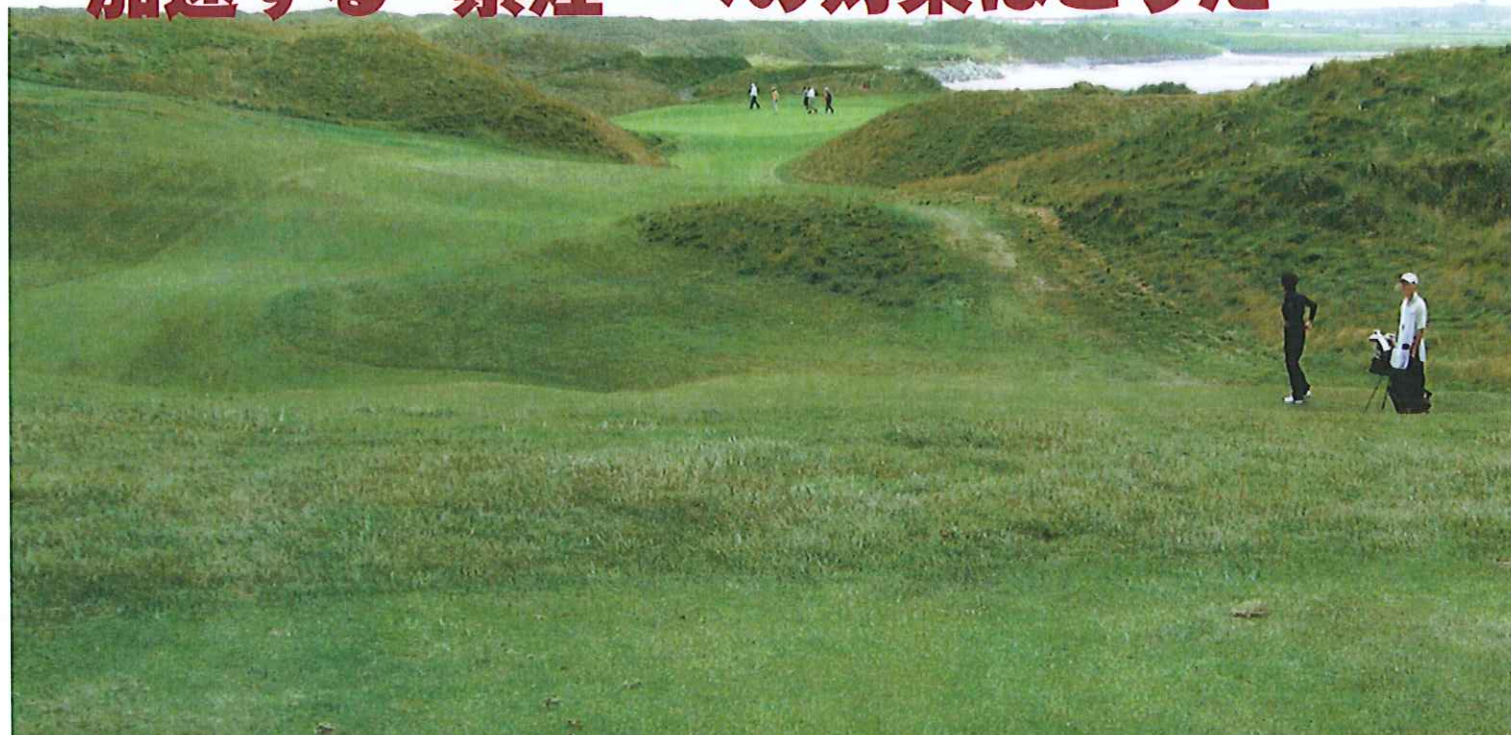
ゴルフマネジメント10

特別付録 **コース管理速報**

Photo : Ballybunion Golf Club

全国初の「神奈川県受動喫煙防止条例」はゴルフ場も規制の対象

加速する“禁煙”への対策はこうだ



レジャー白書2009分析 Part2

データが示すゴルフ業界再生戦略

収益を最大化! 他業界に学ぶイールドマネジメント

ゴルフ特信 5000号記念(前)「第2次ブームからバブル崩壊まで」

クローズアップ21 WEB会員の登録者が1万人を突破 多古カントリークラブ

カジュアル感覚でリピーター率6割に



言いたい放題

第66回

PGSとHDCP

「メンバースhipコースの会員にはなっていないけどオフィシャルハンディが欲しい」「オフィシャルハンディを取ってパブリック協会とかJGAでやっている競技の予選にも出てみたい」

筆者の知り合いにもこんなゴルフアワーが結構いる。メンバースhip（会員制ゴルフクラブ）の会員になっていないゴルフアワーでもプライベートコンペだけでは飽き足らず、オフィシャルハンディで出場できる競技にもチャレンジしてみたいというゴルフアワーも増えている。

オフィシャルハンディキャップとは日本ゴルフ協会（JGA）の「JGAハンディキャップ規定」に

基づいて査定された「JGAハンディキャップ」のことをいう。これはメンバースhipコースの会員でなくても誰でも取得できる。

HDCP取得法

JGAハンディキャップ（HD CP）の目的としてJGAは次の4項目を挙げている。

- ①全国のゴルフアワーのハンディキャップを同一の規定のもとに査定し、公正かつ均衡のとれたハンディキャップを普及させること。
- ②査定されたハンディキャップは、各ゴルフアワーの最近の一定期間内のスコアを反映させたもの。
- ③種々の選手権競技に参加する場合の基準とすること。

④査定されたハンディキャップは、すべての競技に有効であること。

JGAハンディキャップを取得するには、JGAは次のいずれかの組織、団体に所属しなければならぬとしている。

- ①JGA加盟団体（8地区連盟）
- ②JGA正会員（加盟ゴルフ倶楽部）
- ③JGA個人会員・ジュニア会員
- ④都道府県ゴルフ競技団体
- ⑤（社）日本パブリックゴルフ場事業協会加盟ゴルフ場

JGAが認めた組織・団体
JGAの個人会員は1万円の入会金と1万円の年会費を添えて申し込み誰でも入会できる。JGAハンディキャップを取得すれば

日本オープン、日本女子オープン、日本シニアオープンの各予選競技に参加することができる。
海外に行つて、たとえばセントアンドリュース・オールドコースでプレーしたいという場合はハンディキャップの証明書を提示しなければならぬので、そういうときのためにもJGAハンディは持つていたほうがよい。

他には（社）日本パブリックゴルフ場事業協会（PGS）に加盟して

いるゴルフ場を通してJGAハンディキャップを取得することもできる。

PGS加盟コースには「PGS会員登録申請書」というのが置いてあるので、これに登録料（1年間有効）2000円（中部・西日本は1500円）を添えて申し込み、「PGS会員証」の交付を受ける。

PGS加盟コースからJGAハンディキャップを取り扱っているコースを1つ選んでホームコースとする。全国のJGAコースレイングのあるコースでプレーした場合スコアカードを「ホームコース」に提出する。

提出したスコアカードが5枚を超えると「PGSハンディキャップ証明書」（暫定）が発行され、この時点でPGSスポンサー杯、PGSハンディ杯、PGS月例競技などに参加できる。提出スコアカードが10枚を超えると「JGAハンディキャップ証明書」が発行され、取得したハンディがオフィシャルハンディとなる。

ハンディキャップ査定に必要なスコアカードは2年以内にプレーした10枚。10枚を超えたときは、

すでに提出したカードの中からプレー日の古い順に入れ替え、常に最新の10枚で査定される。

PGS会員の登録期間は1年間であるから、継続する場合には改めて「PGS会員登録申請書」に登録料を添えて、ホームコースとして決めてあるPGS加盟コースに改めて申し込まなければならぬ。

パブリックの役割

(社)日本パブリックゴルフ場事業協会は1962年に関東パブリックゴルフ協会として創設され、2年後に日本パブリックゴルフ協会と改称。それまでは任意団体だったのが、平成6年に社団法人になり、名前も日本パブリックゴルフ場事業協会（PGS）となつて、現在加盟しているのは91コース。

約1万6500コースあるアメリカのゴルフ場のうち、約8割がパブリックコースであるといわれている。何せ全米オープンを3年間続けてパブリックコースで開催する国である。ところが日本はほぼ2400のゴルフ場のうちパブリックコースは約240コースというからわずかに1割。



日本のゴルフ人口はだいたい1千万人ということになっていて、そのうちメンバーシップコースの会員になつていて人は300万人ぐらいだろうといわれている。ゴルフ人口の約7割がメンバーシップの会員権を持っていないゴルフアーということになるので、ゴルフを普及させるためにはパブリックコースの役割について改めて考えてみる必要がある。

240あるパブリックコースのうち、PGSに加盟しているのはわずかに90コース前後というのは

いかにも淋しい。パブリックコースとは言つても、公営のムニシバルコースが多いアメリカと違って、日本のパブリックコースは単にメンバーシップでないというコースが多い。ゴルフ場を建設するとき、会員を募

集する必要がないのでパブリックコースとしてスタートしたところも多いので、パブリックとは名ばかりというコースも少なくない。

PGS設立の目的は「ゴルフの大衆普及化、ゴルフ産業の向上発展を図ることにある」というように、安い料金で気軽に楽しめるゴルフを普及させることがPGSの使命であるはず。そうであるなら、240のパブリックコースが一つにまとまり、共通の目的に向かって団結すれば、日本のゴルフはもっともつと好い方向に進んでい

て活性化にもつながっていくはずだ。

バブルがはじけた後、メンバーシップのゴルフ場もキャディなしのセルフプレーが普及したことでピジターフィが安くなり、メンバーフィとたいして変わらない料金でプレーできるコースが多くなつている。料金だけを見れば、メンバーシップもパブリックコースもあまり差がなくなっているという印象もなくなはない。

けれどもパブリックコースは公平な統一ハンディ、つまりオフィシャルハンディの普及にも力を入れ、誰でも参加できるゴルフ競技も多く開催している。筆者は近くの昭和の森GCの月例競技によく参加している。

PGSのメイン競技といえば①全日本パブリック選手権（男女）、②55歳以上の全日本シニアパブリック選手権、③65歳以上の全日本ミッドシニアパブリック選手権、④30歳以上の全日本パブリックミッドアマチュア選手権などがある。筆者は現在65歳以上のミッドシニアに挑戦しているが、70歳以上の競技も是非開催してほしい。（日本ゴルフジャーナリスト協会会長）